令和７年度

試験研究及び事業計画の概要

令和７年４月

広島県立総合技術研究所
畜産技術センター

目　　次

１　試験研究の基本方針---------- １

２　試験研究の推進体制---------- ２
（１）　試験研究推進組織
（２）　沿革

３　令和７年度試験研究課題及び事業---------- ３
（１）　試験研究課題
（２）　事業

４　令和７年度事業計画の概要---------- ４-５
（１）　家畜人工授精事業
（２）　広島和牛経営発展促進事業（広島血統和牛増産事業）
（３）　広島和牛ブランド構築事業

1　試験研究の基本方針

広島県では、県民の皆様と目指す姿を共有し共感を得ることで、県民の皆様との新たな広島県づくりを推進しており、施策を貫く３つの視点でビジョンの実現を目指します。

畜産技術センターでは、特に、農林水産局施策「2025 広島県農林水産業アクションプログラム」の実現に向け、比婆牛の付加価値向上、県内農家への和牛 TMR（混合飼料）の利用促進と受精胚移植技術を活用した着実な広島県産和牛の増頭、ＤＸ（デジタルトランスフォーメーション）技術を活用した畜産経営効率化に資する技術開発と移転を推進します。これにより、農林水産業者や中小企業の生産性向上を支援し、付加価値向上によって県経済の持続的発展に貢献することを目指します。

今年度、特に注力する研究分野は次のとおりです。

1　広島県産和牛の魅力度向上につながる県産和牛肉の特長を持つ肥育牛の安定生産、広島県固有血統の種雄牛造成（関係局と連携）を推進する。
2　顧客が抱える課題解決への応用が期待される AI や ICT、ゲノム研究などの新たな技術要素を総研内外から積極的に導入し、センター内への定着と利活用を促進させる。
3　畜産分野への DX 推進について、これまでの研究活動で獲得したノウハウを積極的に活用し、デジタル基盤技術の構築を図り、現場展開を目指す。

目指す姿	「安心・誇り・挑戦　ひろしまビジョン」 （R2 年 10 月策定、計画期間 R3 年から 10 年間）
３つの視点	ＤＸの推進、ひろしまブランドの強化、人材育成
ビジョン	将来にわたって、「広島に生まれ、育ち、住み、働いて良かった」と心から思える広島県の実現

２　試験研究の推進体制

（１）　試験研究推進組織（令和７年４月１日現在）

部　　所	研 究 職	行 政 職	計
セ　ン　タ　ー　長	１		１
次　　長	１	１	２
総　務　部 管　理　課		６	６
技 術 支 援 部	２		２
飼 養 技 術 研 究 部	６		６
育 種 繁 殖 研 究 部	１２		１２
計	２２	７	２９

注）総務部長、技術支援部長は次長兼務配置。

（２）沿革

明治３３年　農商務省七塚原種牛牧場として、種畜の繁殖及び配布、種付け等の事業を開始。
大正　５年　農商務省畜産試験場中国支場と改称、広島県種畜場を神石郡油木町に設立。
大正１２年　農商務省畜産試験場中国支場廃止の後、広島県種畜場七塚原分場として発足。
昭和１４年　広島県七塚原種畜場に改称、広島県種畜場を広島県油木種畜場と改称。
昭和４７年　広島県立畜産試験場として統合し、本場、油木支場（肉用牛）、三次支場（鶏）、新市支場（豚）に組織変更。
昭和４８年　新市支場を本場に統合。
昭和５６年　肉用牛の試験研究部門を油木支場から分離して本場に統合し、油木支場を油木肉用牛改良センターに改称、三次支場を三次養鶏支場に改称。
昭和５９年　三次養鶏支場を養鶏部に改称。
平成　７年　広島県立畜産技術センターとして改称し、組織を総務部、企画情報部、飼養技術部、生物工学部、環境資源部及び広島牛改良センターとし、三次に養鶏試験地を置く。
平成　８年　三次養鶏試験地を廃止し、本所に統合。
平成１８年　養豚部門を廃止。
平成１９年　広島県立総合技術研究所畜産技術センターと改称し、組織を総務部、技術支援部、飼養技術研究部、育種繁殖研究部及び広島牛改良センターとする。
養鶏部門休止。
平成２０年　広島牛改良センターを畜産技術センターへ統合。
平成２３年　総務部総務担当と業務課を再編し、管理課を設置。

３　令和７年度試験研究課題及び事業

（１）　試験研究課題

番号	研　究　課　題　名	予算区分	研究期間	研究担当	研究区分
1	デジタル技術を活用した牛の飼育管理支援	県単	Ｒ５～７	飼養技術研究部	総研ＤＸ
2	一次産業施設のモデルベースを活用した生産性向上を支援する施設内環境制御技術の開発	県単	Ｒ５～７	育種繁殖研究部	課題解決研究（一般）
3	子牛の生産率を改善させる体外胚培養技術の開発	県単	Ｒ６～８	育種繁殖研究部	課題解決研究（一般）
4	比婆牛の特徴を強化する飼養方法の開発	県単	Ｒ７	飼養技術研究部 育種繁殖研究部	総研基盤研究（行政ニーズ対応型）
5	畜産からのＧＨＧ（温室効果ガス）排出削減のための技術開発	外部	Ｒ４～８	飼養技術研究部	競争的資金

（２）　事業

番号	事　　業　　名	予算区分	期　間	事業担当	備考
1	家畜人工授精事業 ア　精液の製造・供給 イ　種雄牛検定推進	県単	Ｓ27～ Ｓ43～	育種繁殖研究部	
2	広島和牛経営発展促進事業 （広島血統和牛増産事業）	県単	H28～	育種繁殖研究部	
3	広島和牛ブランド構築事業	一部国庫	Ｒ４～７	育種繁殖研究部	

４　令和７年度事業計画の概要

（１）家畜人工授精事業

[事業の目的]

実需者のニーズに対応した和牛肉を安定的に消費者へ提供するため、広島血統和牛の増産に必要な県有種雄牛の精液を製造、供給する。

[事業項目、実施年度とその概略]

ア　精液製造・供給（昭和 27 年～）

広島血統和牛の改良と増殖を図るため、凍結精液の製造・供給

令和７年度事業計画：精液供給計画本数：4,700 本

イ　種雄牛検定推進（昭和 43 年～）

広島血統種雄牛の造成及び検定、次世代の種雄牛の選抜

（ア）　直接検定の実施：４頭

（イ）　後代検定の実施：２頭

（ウ）　育種価の算出　：２回（前期、後期）

[令和６年度　成果の概要]

ア　**凍結精液の生産・供給**

（ア）　生産実績：14,911 本　（基幹種雄牛 7,373 本、待機種雄牛 7,538 本）

（イ）　供給実績： 3,262 本　（基幹種雄牛 2,836 本、待機種雄牛　426 本）

イ　**種雄牛の産肉能力検定**

（ア）直接検定

表１　６頭の検定が終了した。

名　　号	血　　統		体高発育ランク	DG (kg)	365 日補正体重 (kg)	審査得点
	父	母方祖父				
奥５０８５	沖茂金波	福之姫	A+	1.46	461.4	82.9
奥波姫	花勝百合	勝忠平	A++	1.06	436.7	83.0
神石波	花勝百合	諒太郎	A++	1.11	452.5	83.6
沖福宝	花勝百合	勝忠平	A++	1.19	487.0	83.6
沖美勝	花勝百合	勝忠平	A	1.13	450.2	83.3
神竜粋吹	神竜岩田	沖茂神竜	A	0.98	379.1	84.2

（イ）現場後代検定

表２　１頭の検定が終了した。

名　　号	血　　統		枝肉重量 (kg)	脂肪交雑 (No)	ロース芯面積 (cm^2)	バラの厚さ (cm)	皮下脂肪厚 (cm)	推定歩留 (%)	MUFA (%)
	父	母方祖父							
立橋５８	勝白福	茂勝栄	495.9	7.2	67.2	7.9	2.2	75.3	54.3

※「勝山桜」は検定頭数が 15 頭未満のため後代検定不成立。

表３　検定成績からの育種価算出結果

名　　号	枝肉重量（kg）	脂肪交雑（No）	ロース芯面積（cm^2）	バラの厚　さ（cm）	皮　下脂肪厚（cm）	推定歩留（%）	ＭＵＦＡ（%）
勝山桜	480.8	8.92	65.6	7.3	2.1	75.0	－
立橋５８	512.5	6.93	63.9	7.7	2.0	74.8	57.0

（２）広島和牛経営発展促進事業（広島血統和牛増産事業）

[事業の目的]

乳用牛への受精胚移植による和牛増産を推進するとともに、規模拡大や繁殖肥育一貫経営等の経営発展を目指す経営体に、安定的に受精胚産子が供給される仕組みを構築する。

[事業項目、実施年度とその概略]

体外受精胚の生産・供給（広島和牛経営発展促進事業（広島血統和牛増産事業））

採卵回数 39 回

[令和６年度　成果の概要]

体外受精胚の生産・供給

ア　採卵頭数 143 頭（販売 71 頭、手数料 69 頭、種雄牛造成 3 頭）

イ　体外受精胚の生産個数：1,456 個

（販売 602 個、手数料 854 個）

（和牛　県有種雄牛 602 個、県外種雄牛 854 個）

ウ　体外受精胚の供給個数：1,328 個

（販売 474 個、手数料 854 個）

（３）広島和牛ブランド構築事業

[事業の目的]

比婆牛を食べる場の創出や、味の特長の調査など、本件の独自性等を活かした広島和牛ブランドの付加価値向上に取り組むことにより、広島和牛の「ひろしま」ブランドとしての強化を図る。

[事業の概略]

比婆牛を食べる場づくり・流通の円滑化。比婆牛の魅力を訴求するための科学的根拠の精度向上。広島和牛の認知向上に向けた PR。

発行　広島県立総合技術研究所畜産技術センター

〒727-0023　広島県庄原市七塚町 5584
TEL (0824)74-0331、(0824)74-0332
FAX (0824)74-1586
http://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/31/